

【炉端解説】

# 地球温暖化問題を考える

浜田 崇



## 1. はじめに

2005年2月16日、京都議定書がついに発効されました。これにより温室効果ガス排出量の削減が義務となり、地球温暖化防止はもう先のばしすることが出来ないこととなりました。それにもかかわらず、温暖化防止対策はなかなか進展する気配が感じられません。2004年の異常気象は地球温暖化による危機を想像させるに十分だったと思いますが、なぜ対策が思うように進まないのでしょうか。

## 2. 地球温暖化問題とは何か

そもそも地球温暖化問題とは何なのでしょう。大きく分けて2つの意味がありそうです。1つは過去から現在までの話で、地球が温暖化しているかどうか、その原因は人間活動によるものかどうかという問題です。もう1つは予測の話で、温室効果ガスをこのまま排出し続けるとどうなるのか、地球温暖化は自然や社会にどのような影響を及ぼすのだろうかという問題です。

前者については、最近、人間が大気中に排出した温室効果ガスを考慮しないと、近年の温暖化傾向(いわゆる地球温暖化)は気候モデルによって再現されないというシミュレーション結果が出ました<sup>(1)</sup>。このシミュレーションは現状で考えられるすべての気候変動要因を考慮したもので、これにより地球温暖化が自然の変動ではなく人間活動の影響である可能性がいつそう高まることになりました。とはいえ、シミュレーション結果はあくまで現時点での最善の答えであって、依然としてある程度の不確かさはぬぐいきれず、地球温暖化が100%人間の影響で起きていますとはまだ断言できないのが現状です。

後者については、さらに不確かさが増すことになります。過去から現在に至るまでの気候をシミュレーションにより完全に再現できない現状では、未来の気候を正確に予測することは難しいと思います。また温暖化による影響の予測はさらに難しくなるものと思います。現状は、考えられるさまざまな温暖化シナリオを描き、それにより想定される影響を比較検討しているところです。

## 3. 地球温暖化問題と温暖化防止対策

このように温暖化の原因や影響がはっきりとしないにもかかわらず、私たちは温暖化防止のために行動しなければならぬ状況にあります。ここに地球温暖化防止対策の難しさがあります。

人によっては、京都議定書から離脱したアメリカのように、温暖化しているかどうかさえ明かとなっていないのに、なぜ温暖化を防止する必要があるのかと考える人もいます。また、自分の身に、あるいは自分の住む地域にどんな影響が及ぶかわからないのに、温暖化防止といわれてもピンとこない

という意見も必ず出てくるでしょう。逆に、温暖化の原因や影響ははっきりしなくても、少しでも悪影響が予想されるのであれば予防手段として対策を取るべきという意見も多いと思います。このように様々な意見がありますが、それとは別に地球温暖化問題をベースにして温暖化防止対策に取り組むという話のすすめ方に無理があるように私には思えます。もっと単純に言えば、対策の前に「温暖化防止」とつくことがかえって混乱を招いているような気がするのです。

## 4. 温暖化防止対策はエネルギー対策

温暖化防止対策の中身を見ると、化石燃料の消費削減や再生可能エネルギー利用の促進など、そのほとんどがエネルギー対策となっています。それならばいいそのこと、環境への影響が少なく、資源の持続的利用をはかるためのエネルギー対策とした方がわかりやすいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

私たちは地球温暖化問題の解決のターゲットを間違えてはいけません。温暖化しているかどうかや、温暖化によって何か影響が出るのかが争点ではなく、温暖化を生み出すほどの化石燃料の使用やエネルギー消費のあり方自体が問題なのです。そのことをしっかりと見すえる必要があるのではないのでしょうか。そうしないと、仮に寒冷化が始まったとしたら逆にCO<sub>2</sub>をたくさん大気へ放出して寒冷化を防止しようという話になりかねません。

## 5. おわりに

以上のように温暖化問題と温暖化防止対策は別々に考えるほうがいいのではないかと思います。ただし、温暖化防止対策だけ実施すれば温暖化問題は解決しなくてもいいのかといえば、それは違います。すでに温暖化が進行している可能性は十分あるわけですから、これから気候がどのように変化するのが明らかにする必要があります。そしてその気候に私たちは当面どのように適応すればよいかを考える必要もあるでしょう。また気候の急激な変化に伴い自然環境に悪影響が生じることも想定できます。人間も地球という生態系の一部である以上は、自然環境の変化とその影響にも今後十分注意を払う必要があると思います。

(長野県環境保全研究所 循環社会チーム 自然地理担当)

## 参考

(1)平成16年11月5日に東京大学気候システムセンター、国立環境研究所、地球環境フロンティア研究センターの共同で「数値気候モデルによる20世紀の気候再現実験について」という報道発表がなされた。

<http://www.env.go.jp/earth/kiko-model/index.html>

こんなこと  
やってるよ!

## 活動紹介

# 自然と人に学ぶ

森倶楽部 21

森倶楽部21は、森林保全ボランティアとして活動を始めて8年目になります。1997年、温暖化問題を議論するCOP3が京都でおこなわれ、これをきっかけに活動をおこした仲間たちが、映画【草刈十字軍】を上映しました。この映画を通して どうも森林が荒れているようだ、何故だろう? と思ったのが、実際に山に入る始まりでした。

とにかく自分の目で現場を見ること。手始めに大町の荒山林業へ体験に行きました。そこで知ったのが、「間伐」。木を間引いて光を入れ、林床植物の成育を促し、木も育てる。

間伐が大事とわかったけれど、実際どうすれば?と思っていたところ、林業家荒山さんのご指導で、森林の保全に向けての実践活動が始まりました。森づくりの考え方、手入れの仕方、道具の使い方を教わり、カラマツ林の間伐作業をしました。チェーンソーを使うことのできる資格取得にも挑戦しています。しかし、私たちの活動は、林業で生計を立てているプロにとって代わるものではありません。山に縁がなかった人たちが森林のことを勉強し技術を身につけ、仲間とともに森に入る。そこから得た楽しさや自然の魅力を伝え、山から離れている人の心や暮らしを今一度山と結んでいく活動であります。

この5年間は、特に明科町長峰山で、山の特徴を多方面から調べ、それを基にした森林整備活動をしてきました。地元の古老から里山の暮らしや知恵、文化を教えていただき、共に作業し、里山の荒廃とともに失われつつある生

き物が、今ここにある姿に感動しています。里山の生き物は、手を入れ続けてきた人間の暮らしとともにあったということが、ここでは実感できます。

このような里山の素晴らしさを伝え、里山の手入れを通じて自然と人に学び、この環境を次代に引き継いでいく仲間を増やしたい。この3月27日には、そんな思いをこめて明科町長峰山で【天平の森フォーラム】を開催します。(本誌8ページをご覧ください)



鳥帽子山森づくり終了!(2004年12月19日)

### 会への問い合わせ先

森倶楽部21 代表 永田千恵子  
松本市笹賀2497-3  
TEL & FAX 0263-58-0360  
Eメール:nagatak@poa.matsumoto.ne.jp

## こんな本みつけた

# テレマークスキー漫遊奇譚 ~ 転がる石のように ~

堀田貴之著(スキージャーナル(株)、225P.1300円、2005年1月発行)

冬から早春への季節にちなみ、テレマークスキーというのをご存知だろうか?そう、あのカカトが固定されていない独特のスキーのこと。近ごろ、静かに人気が出ているらしい。この本は、著者みずからが言うところの“四十を過ぎてテレマークに出会い、浮き足立った男”の痛快なエッセイである。

文体はときに不真面目。内容には怪しいところがある。それなのに面白いのはなぜ?それは、心の自由があるから。いくぶん品のない話や、内緒にしておいたほうがよさそうな話もある。それなのに爽やかなのはなぜ?きっと魂に正直だからだろう。テレマークに出会ったことから、新潟・長野・北海道などはもちろん、海外の山にまで足をのばす。そこはたいてい未整地のバックカントリーといわれるようなところだ。行く先々のナマの自然とともに、多くの仲間や知人、見知らぬ人との交歓がある。つまりは、いいこと

ばかりのお遊びではなく、不便をも楽しむ大人の旅なのだ。ときにさりげなく、ときにハニカミをもって、大自然に足を踏み入れる者がわかまえるべきマナーも語られる(雪山の自然の保護と利用にはデリケートな問題もあるんです)。

著者はしょっちゅう転んでいるようだが、スキー技術の腕前は不明である。しかし「かなりの達人にちがいない」と僕は見た。聖と俗の危うい境界を、こんなに軽々と浮遊しつつ、しかも自分を失わないバランス感覚。うーむ、ただ者ではない。

(紹介者 富樫 均)

